

なぜ、あの会社は現場の動きが見えるのか？

—— 現場の知恵を引き出し「見える化」する方法

世界経済の情勢はようやく「底入れ」から「回復」に向かって動き始めた。とはいえ、企業の経営環境が引き続き厳しい状況にあることに変わりはない。景気の先行きが一段と不透明化するのに加え、追い打ちをかけるような新型インフルエンザの大流行と、企業は未曾有の危機に直面している。

そんな中、以下に紹介する2つの会社は、いずれもネットワークを駆使して現場の状況をリアルタイムに把握できるようにし、知恵を出し合う環境を作り上げることに尽力している。両社の狙いとその効果を探った。

四国旅客鉄道株式会社（JR 四国）

<http://www.jr-shikoku.co.jp/>

2009年6月、JR 四国は、グループ会社の情報共有基盤、「JR 四国グループネット」を一新した。基盤ツールには「コラボノート」を採用。掲示板的な活用を進化させ、本社および駅や運転区所、保線区などの各現場とグループ会社をつなぎ、社員数千名が「双方向通信で情報共有する」という画期的なシステムを稼働させた。

同社は厳しい経営環境を乗り越えるべく、様々なアイデアや業務改善策を職場の枠を越えて討論するための基盤となる新たなシステムを稼働させた。

「JR 四国グループネット」は JR 四国およびグループ企業の掲示板の役割を担うべく、2001年（平成13年）にスタートし、通達や事務連絡を始め、全社共通の情報を掲載してきた。2007年4月にヒヤリハット事象の報告と対策の迅速化を狙い、コラボノートを導入。社員や管理者が報告内容を入力すると、即座に全体に情報公開され、解決策や過去に発生した同様の問題の対処などを関係者や本部が直接書き込めるようにした。

また、発生時の天候や心理状態などの情報も合わせて入力され、事象の発生要因をより細かく分析できる。

さらに、災害対策本部でも駅や運転区等の現場と本部間の情報共有にもコラボノートを活用。現場からの問い合わせ電話が激減した。

これらの実績をベースに、2009年6月、「新グループネット」として進化させた新システムでは、単なる掲示板機能のほか、オンライン・ホワイトボードの双方向通信機能をフルに活用。これまで顔合わせでは手間がかかっていた部門間の根回しや小規模なミーティングなどにも適用し、効果を上げている。また、社員がコラボノート上で討論する中から新しい発想が生まれ始めており、勉強会などの小集団活動も活発化しているという。

株式会社 山田製油

<http://www.henko.co.jp/>

京都桂で「手作りの胡麻油」で急成長を遂げている同社。製品作りに関してはマニュアルに頼らず職人の「カン」を大切にする一方、営業と経理に関しては徹底的に「数値」を追及するのが同社のこだわり。SFA、ブログ、各々を徹底的に使い込んだ社長がやっと見つけた理想の営業管理ツール、それが「コラボノート」だった。

特に営業に対しては「昨日よりも良かった」ではなく「何何円売れた。昨日より何円、何パーセント伸びた。目標達成までにはあと残り何円」という明確な数字を要求する同社の山田社長。しかし、毎日メールで報告を受けていても、販売実績が飛躍的に伸びたり、社員が力をつけているという実感は正直得られなかった。SFAを導入し科学的な営業管理なるものにチャレンジしたこともあったが、データを入力しても思うように実績は伸びず、結局投資に見合う効果は得られなかった。ブログやグループウェアも試してみたが、言葉のやりとりや議論まで進んでいくことはなかった。

「私が営業報告書に求めるものは単なる伝票上の数値ではありません。当日の結果から“伸びない原因”を早くつかみ、あらゆる手を素早く打つことによって、いち早くリカバリーしたいのです。気づいて手を打てば、残り3日で取り返しはきくのです。」

そんな社長が出会ったのがコラボノートだった。

「これだ！これなら自分が思い描いていたことができる」と直感。早速資料請求、デモを見て、即座に購入を決断した。催し会場の写真が貼れて、そこに誰でもどこからでもコメントが書き込める。記入した数値データを簡単に集計できる。操作も簡単なので、講習の必要もなく社員がどんどん使いこなしている。

「複数人でのコミュニケーションの道具としてほぼ理想的なものだ」というのが同社の評価だ。

【コラボノートとは？】

コラボノートは“ホワイトボードをネット上で共有する”というシンプルな発想から生まれたソフトウェアです。いつでもどこでもホワイトボード感覚で討論・コラボレーションができる環境が生まれます。テンプレート、承認・閲覧・CSV出力機能など業務を効率化する機能も満載。簡単な定義だけでいつもの仕事を手順そのままに大幅に効率化できます。さらに、作成・更新された情報がすぐにわかる工夫がいっぱいなので、会社の動きを一目で把握できます。

※「コラボノート」は、株式会社ジェイアール四国コミュニケーションウェアの登録商標です。その他、記載している会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

今ならコラボノートを 60 日間無料体験できるキャンペーン中！ ※数に限りがありますので、お早目にお申し込み下さい。

詳しい情報・
お問い合わせは
こちら

フリーコール 0120-999-687 (固定電話専用)

<http://www.collabonote.com/>

コラボノート

検索



コミュニケーション創造企業
株式会社ジェイアール四国コミュニケーションウェア

本社：香川県高松市浜ノ町8番24号